

意見交換会実施報告書

令和 7 年 9 月 1 6 日

赤穂市議会議長 様

総務文教委員会委員長 土遠 孝昌

総務文教委員会は、下記により意見交換会を実施したので報告する。

記

開催日時	令和7年 8月29日（金）13時25分～15時20分
開催場所	赤穂市役所6階 大会議室
意見交換会テーマ	今後の学校給食の在り方について
出席委員	代表者及び司会者：土遠 孝昌 記録者：荒木 友貴 前川 弘文 田渕 和彦 家入 時治 西川 浩司
相手方団体名 及び参加者数	赤穂市立学校給食センター運営審議会委員 8名
主な意見等	<p>1. 活動の概要</p> <p><u>審議会の役割</u></p> <p>◇赤穂市は「学校給食に関する重要事項」および「給食センターの運営」について教育委員会が適切に意思決定できるよう、附属機関として審議会を設置している。</p> <p><u>審議会で審議される主な内容</u></p> <p>◇①学校給食の基本方針（食育の方向性、年間方針、地産地消の推進等）の審議・意見具申、②給食センター運営の重要事項、③献立・栄養管理等の基本的考え方、④調達・衛生・コスト管理等の運用上の課題、⑤給食センター整備・再編等の大規模事項が挙げられている。</p> <p><u>審議会委員の構成</u></p> <p>◇委員は15名以内で、教育委員会が委嘱する。学校長・教職員（栄養教諭等）、保護者（PTA）、医療・保健衛生関係者、栄</p>

	<p>養・食品の有識者などで多面的に構成されている。</p> <p>給食については以前から保護者等の要望も多く、このたび新学校給食センターが竣工することから赤穂市の学校給食を取り巻く課題について広く意見交換を行う目的で設定した。</p> <p>2. 赤穂市立学校給食センター運営審議会委員との質疑応答</p> <p>※○印は赤穂市立学校給食センター運営審議会委員（市民団体）、●印は総務文教委員会委員側からの質疑・意見等である。なお、当日の進行は総務文教委員会側から質問を投げかけ、審議会委員の方々にお答え頂く方法で意見交換を行った。</p> <p>（1）給食費無償化についてどのように考えられているのか。</p> <p>○給食費の無償化自体については良いことだと思うが、今後全国一律に無償になることで、予算内に収めるため給食の質や量が低下することが無いようにしてほしい。</p> <p>●（関連質問）栄養士達がカロリー計算等をして、予算内で献立を組むのにも限界がきているのではないかな。</p> <p>○既に食材費の価格高騰のため、赤穂市恒例のデザートやお祝いメニューが無くなっていることを児童生徒も敏感に感じており残念がっている。</p> <p>○国の方針で無償化になった場合も、赤穂市独自で給食の質（品数や質）を維持するため、上乗せ分の補助や徴収は考えても良いのではないかな。</p> <p>（2）給食の量や質について</p> <p>○児童生徒の意見を聞くと、給食については基本的に美味しいという意見を持つ子が多いと感じている。ただし、日によって献立が寂しく感じる内容だったり、メイン級の副菜が同時に出されたりするので、もう少し組合せを考えてくれたら良いのにと感じることもある。</p> <p>●（関連質問）以前、中学生用の給食のカロリー量が足りないとの指摘があったが、給食の量についてはどうか。</p> <p>○日によっては量が少ないと感じる時もあるが、それと同時に残渣がたくさん出てしまう日もあり、残すことによる栄養バランスの偏りが気になることはある。昔と違い、食べきるま</p>
--	---

	<p>で指導するという方針を取っていない。</p> <p>(3) 2回のリハーサルを通じて感じた新学校給食センター移行に伴う課題等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○実際に児童生徒と2学期から取り組む中で、徐々に慣れていく部分もあると思うが、食缶の形状が変わり返却の時に食器を縦にする構造になっている。浅いトレイはあるものの汁が垂れてしまい不便を感じている。特に低学年や幼稚園児は食器の戻し方も教員の補助が無いと難しい。 ○配送する際のコンテナが以前と変わり各学年ごと等ではなく分別なく1コンテナに詰め込む形となっており、給食当番が短時間にコンテナに殺到して割り振りが難しくなっている。 ●(関連質問) 各教室へ運ぶ際に食缶が重いなど不便はないか ○大規模校では汁が運搬中にこぼれないように、事前に相談し大きめのサイズに変えてもらったことで安全に運んでいる。 ●(関連質問) 以前は生徒数が少ない学校では調理した食材が冷めてしまっていたが温度管理はどうか。 ○汁物の温度管理もできるようになっている。 ●(関連質問) 大規模な修繕は必要がないと聞いているが、配送車と学校側の接続についてはどうか。 ○原小学校では、配送車をそのまま付けようとすると施設側の屋根と接触してしまう。 ●(関連質問) 配膳室の状況はどうか。 ○夏場の配膳室は狭い空間で、非常に温度が高い状態で作業をしており、スタッフの負担になっている。また、ご飯などは先に届くため、食材が揃って配膳するまでの時間保管をするので安全面が気になる。クーラーもしくはスポットクーラーを設置してもらいたい。 <p>(4) アレルギー対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ●新学校給食センターになると、アレルギー対応食のラインが分けられ、乳・卵の食材に対応できるようになるそうだが現場の対応はどうか。 ○乳・卵以外にも甲殻類アレルギーのお子さんが多く、対応範囲が広がるのが望ましい。 ○低学年以下の児童生徒に対しては学校では教員が除去して
--	---

	<p>いる。新しい配膳方法になって、アレルギー対応食が該当の子の元に届くまでに以前より人の手を介する部分が増えたので、渡し間違いがないように気を付けなければならない。</p> <p>○現在アレルギー対応用のマニュアルが策定され、これから実際に現場で対応を検討する段階になっている。</p> <p>○アナフィラキシーへの対応として、学校等でもエピペンを躊躇なく使える訓練をすることも必要ではないか。</p> <p>(5) 給食費の徴収方法について</p> <p>●兵庫県下でも公会計制度を取り、学校側に徴収の負担がないようにしている自治体がほとんどだと聞くが、実際の負担感はどうか。</p> <p>○完全に給食費が無償化されれば徴収の必要はなくなるが、現在は引き落としができないご家庭については養護教諭等が保護者に徴収の手続きをしており心理的にも負担がある。中には義務教育期間の給食費が積みあがっているご家庭もあるが、仮に他の支援金等の収入があっても、学校では差し押さえることはできない。</p> <p>○銀行が開いている間に、養護教諭が学校を離れ手続きに行かないといけないのが物理的に難しい。</p> <p>●（関連意見）以前、公会計制度について問合せた際には、教員が関わることに意味があるという教育委員会の答弁であった。</p> <p>(6) 食品ロスについて</p> <p>○食べられない食材があった時でも、昔のように食べきるまで指導する方針ではなくなった。一方で大量に食品ロスが出る日もあり、給食を美味しく工夫するのと合わせて、食べ物を食べる＝命をいただく教育として食品ロスがないような食べる側の食育にも力を入れることが必要だと感じる。</p> <p>●（関連意見）児童生徒や教職員に対して、タブレットを活用してアンケートを取ることも可能ではないか。学期ごとに区切って募る方法もあると思う。</p> <p>(7) 地産地消について</p> <p>○以前は赤穂産デーと呼んでいたが、最近は食材が赤穂産のも</p>
--	--

	<p>のだけでは賄えなくなったので、兵庫県産に広げたふるさと給食になっている。</p> <p>○カキフライが出た際は、人生で初めて口にする子もあり、牡蠣を食べることに苦勞していた。</p> <p>(8) その他要望事項</p> <p>○幼稚園では箸の持ち方に不慣れな子もあり、食材を落としてしまう場合がある。特にシシャモやシュウマイが掴みにくい。幼稚園の場合、このような食材が一人1個しかない時に落とすとメインのおかずがなくなり可哀そうなので、1クラスあたり予備を1～2個入れてほしい。</p>
委員会のコメント	<ul style="list-style-type: none"> ●食物アレルギーを有する児童生徒への対応について、現在どのように実施されているのか。また、アレルギー対応調理室の整備により、来年度からはアレルギー対応マニュアルに基づき、対象者や具体的な対応がどのように変わるのか、調査・確認を行いたい。 ●幼稚園の配膳室については空調設備が整っておらず、給食補助員の作業環境の改善が(来夏までに)必要である。給食補助員のなり手不足が課題となっている中、作業環境が悪いままでは、その不足がさらに加速するおそれがある。 ●残食チェックについて、苦手な食べ物を誰かクラスの友達に食べてもらうこともあると聞いた。新学校給食センターでは、残食量も管理されるので少し気になった。食べない、食べさせないことの指導は必要だ。 ●食物アレルギーへの対応について、アナフィラキシーなどの重大な問題もあり、小学校の高学年では自分で取り除いているが、低学年では学校で先生が個々の対象児童に対し、アレルギー食品を取り除いていると聞き驚いた。自治体によっては、食物アレルギーのある、児童生徒に給食を提供せず(その分の家庭の食費分の負担を自治体とする)弁当を持ってきていただくところもある。保護者の責任で子どもを見る、守ることも必要かもしれない。新学校給食センターになれば、より教職員や保護者のことも考え、対象となるアレルギー食品の数を増やすなど対策が必要ではないか。

- 学校給食費の徴収について、原則、口座振込だが、支払いが滞る家庭が沢山あると聞いた。そういう家庭の給食費の徴収を学校の先生方にさせている。給食費が無償になれば終わるが、それを良しとしてきた体制に疑問を感じた。
- 学校給食費の無償化について、赤穂市は今年度、2学期、3学期分の給食完全無償化を行う。子育て世帯の経済的負担を軽減する目的だ。次年度以降、国の施策として無償化が検討されているが、この実現が遅れた場合、新たなリスクを生む家庭もあると考えられる。そういう意味で心配する意見もでたように思う。国費で完全無償化が実施されるまで、市に完全無償化に必要な予算措置を議会として要求する必要があるのではと思った。
- 幼稚園・学校の配膳室について、エアコンがなく、夏場ではコンテナの保管等、使用時間こそ短いが、高温になり、汗をかきながら作業をすると聞いた。作業者の負担や衛生面などを考慮すれば問題がないとも言えない。エアコンの設置場所がないのか、確認すべきことかと思う。
- 新学校給食センター開設にあたり、調理、配送、配膳、喫食等、シミュレーションしたと思う。8月20日・22日の実施に向けたリハーサルでは問題・課題も出てきたと思う。今回の意見交換会では、新学校給食センターへの移行に関する問題から、現在も、将来も抱えると考えられることなど、多くの意見を伺うことができた。これらの問題・課題解決に向け、議会として取り組む必要を感じた意見交換会だった。
- 今回の意見交換の中で、様々な意見をお聞きしてソフト面、ハード面においても課題が多くあると感じた。受け入れる学校側の環境整備である。配膳室の空調設備や、配送車が入る時に、建物の屋根と配送車の接続する部分に課題があるとの意見は、設計時に改善できる課題であると感じた。
- これから給食費無償化になった時の、献立・質の向上について、新学校給食センターが設立したことから、市民の皆さんに見学エリアを活用して、説明していく必要があると感じた。
- 学校現場では公会計制度によって、教育とは直接関係のない負担が生じていることがわかり、負担軽減が図られる必要がある。

	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●安全に給食が提供されるためには、給食センター職員、学校園等で配食に従事する職員・地域の方々にとって適切な環境整備や無理のない提供の流れが必要であり、今後運用改善をしながら仕組みづくりが必要である。安全でおいしい給食というのは教育分野への投資として重要な要素となるので、赤穂市独自に力を入れるべき分野だと思う。 ●給食費の無償化は家庭的には助かることは間違いないが、今は「給食の質・量」が無償化以降も担保されるのかということに不安感があると理解した。国の施策により無償になった場合でも、その額に拘らず赤穂市としてこのような給食を提供したいという考えに基づいて、受益者負担や市の支援を考え、丁寧に説明していく必要があると感じた。 ●新学校給食センターが開設されることで感謝の気持ちは分かるが、学校現場で不具合があれば遠慮なく給食センターへ改善を申し出ることが、子どもたちのためにも良い。 ●委員会としては、学校現場の状況を把握する必要があると思う。委員を2か3グループに分けて、2日ぐらいかけて調査し、教育委員会へ改善を要望することが委員会の役割だと思う。 ●今回赤穂市立学校給食センター運営審議会委員の皆様から、さまざまな意見をいただいた。学校側での給食の受入れ場所の課題また給食後の食器の返却時の課題など現場の課題について意見があった。今回の課題を受けて、総務文教委員会として実際の学校側での課題等を現場で確認する必要性を非常に感じた。
--	---